

平成22年度 社会を明るくする運動 最優秀作品の紹介

7月は「社会を明るくする運動」強調月間でした。この行事の二環として、児童・生徒の皆さんへ作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、優秀・最優秀賞を受賞した作品を紹介します。(最優秀賞のみ全文掲載)

最優秀賞

小学生の部
大嶺小学校 6年 飯田麗奈

中学生の部
秋芳北中学校 3年 喜多将太郎

『人と人のつながりはあいさつから』
『地域をよくする親子の力』

優秀賞

小学生の部
鳳鳴小学校 5年 高須麗奈

伊佐小学校 6年 岡田百花

中学生の部
厚保中学校 3年 原野寛子

於福中学校 3年 利重佳恵

『みんなが笑顔になるために』
『お祭りの出来る町』
『明るい社会を目指して』
『言葉のコミュニケーション』

人と人のつながりは あいさつから

大嶺小学校 6年 飯田麗奈

散歩をしている時にすれ違った人へ私の方から「こんにちは。」と声をかけると、「こんにちは。今日も暑くなりそうですね。」と返事がすくに返ってきました。「こんにちは。」だけの

きるあいさつだから、すばらしい事なんだと思いました。このたった一言のあいさつをした事で、私は、とてもうれしくなってきました。

朝起きてから、「おはよう。」と始まり、家に帰って「ただいま。」と言つたと言わないのでは、全然違います。あいさつは、人と人をつなげる大切な言葉だと思っています。あいさつには、「こんにちは。」や「さようなら。」などがあります。あいさつをした方は、「あいさつはいいな。」と思うし、あいさつをされた方は、「気持ちがいいな。」今日「日がんばるぞ。」と思うからです。みんなが、出会った人よりも先にあいさつするようにしたら、今まであいさつをしていなかった人も自然にできるようになると思うのでとてもいい事だと思います。

先日、テレビのニュースを見ていたら、犯罪を起こす人が年々増えていると伝えていました。なぜ、こんなに犯罪が増えてきたのかなと考えてしまいました。そのひとつに、人と人のつながりがうすくなつてきているのではないかと思つています。地域の人たちがいつも声をかけ合つて、時には心配したり、時には注意したりすることがこれからも必要だと思ひます。そのきっかけになるのが、あいさつだと思ひます。あいさつを日頃からしていれば、自然と人と人のつながりができるのではないかと思ひます。悩み事があつたりした

時に、相談をする人ができるのではないかと思ひます。どんな時でも何をする時でも一人では何もできません。人とかかわり、まわりの人々によって私たちは支えられています。人をつなぎ、思いをつなぎ、心がつながれば、このような事も少なくなつていくと思ひます。

人と人が出会い、お互いに心を開こうとする時、あいさつが最初の言葉となつてきます。あいさつをすることによって、次の言葉が出やすくなります。今回、「この作文を書きなごら、あいさつをする事は、とても大切な事なんだと再確認する事ができました。これからもあいさつは、今以上に知つている人だけでなく知らない人にも自分から進んでしていこうと思ひました。また、素直に感謝の気持ちを表せる人にもなりたいと思つています。」

「地域をよくする親子の力」

秋芳北中学校 3年 喜多将太郎

毎日、繰り返しされる残酷な事件。なかには人間性を疑がつてしまうような犯罪者もいる。今では、「このような事件が、新聞の紙面を支配してしまつている。そのようなニュースがあふれかえる中、子ども達はどのように思ひ、感じてい

「こんなにたくさんの方が事件を起しているのだから、自分もやつていいのかな。」と思つてしまわないだろうか。

僕は、社会を明るくするために、子どもの力が必要不可欠だと思ふ。少子高齢化が進んでいる今の時代において、子どもの力は貴重であり、頼みの綱であらう。

では、僕達子どもが社会のためにできることは何か。真つ先に思ひ浮かぶのは、「一番身近な「あいさつ」だ。僕は、明るいあいさつをすることによって、気持ちのいい一日のスタートをきることができると感じてい

る。子どもも明るいあいさつで「よし、今日も頑張るぞ。」と思ふ大人も多いのではないか。子どもも元気なあいさつは、受けた方も元気にする。子どもの明るいあいさつは、社会を明るくすることに、必ずつながると思ふ。

僕は、小学生の時、意味を深く考えずにあいさつをしてきた。しかし、中学校に入學して、あいさつをする意味や、あいさつの力を先生から教わつた。だから、今では、地域の方に当たり前のよう

にあいさつができるし、あいさつをしよつ、と意識しなくても自然にあいさつのできるようになってきた。自分が元気になり、相手も元気になるあいさつ。それが本物のあいさつだと思ふ。そのようになつて初めて、社会を明るくす

る運動に力を貸すことができるのだ。

では、他の地域に目を向けてみる。あいさつをしている子どもはいるのだろうか。僕は都市部の小中学生をテーマにした番組を見たことがある。その番組を見た時、とても驚いたことを覚えていた。なぜなら、地域の人に出会っても、あいさつをしていなかったからだ。そのような地域では、あいさつの意義を伝えてくれる親、先生はいないのだろうか。この疑問が生まれた時、僕はとても幸せ者だな、と思った。社会人になっても必要になるあいさつを、子どものうちから身につけることができ、その意義を伝えてくださる先生がいる。ごく当たり前に、あいさつができ、ごく自然に、気持ちよく1日のスタートをきるることができる。その素晴らしいことに気づくことができたのも幸せだと思う。地域の方とのコミュニケーションの第一歩であるあいさつがないような、血の通っていない地域は、その問題点に気づくべきだ。その上で改善しない限り、明るい社会にはなるはずがない。

あいさつと同じく、子どもが力が発揮されるのは、地域行事であろう。過疎化が進んでいる農村部は特にそうだ。子どもが参加しなければ、地域行事が盛り上がりがない。子どもをはじめとする若者が地域行事に積極的に参加すること

で、地域行事は、地域の方とのコミュニケーションを図る貴重な場だ。地域の方と親睦を深めることにより、自分を見守ってくれる人が、一人、また一人と増えていくと思う。

では、社会を明るくする運動において、大人の役割は何なのだろうか。

それは、「子どもを育てること」だと思ふ。しかし、ただ育てればいい、ということではない。明るく元気のいいあいさつができ、地域の方々の存在のありがたさを理解し、感謝できる子どもに育てなければならぬ。そのためにも、まずは大人が正しい手本を示し、子どもに見せなければならぬ。そのような教育が続いていると、大人が子どもから学ぶことができ、自分自身を変えることができるのではないか。これこそ大人が自分自身を見つめ直すチャンスである。

このように、大人と子どもは密接につながっており、どちらも重要なことが分かった。

社会を明るくするためには、子どもの力だけでは不十分だ。だからといって、大人の力だけでも力不足だ。つまり、子どもと大人の力が合わさり、一つの力になって初めて、社会を明るくする運動に貢献できるのだと思う。それほど、子どもにとって、大人の力は大きく、子どもの力は、社会を明るくする運動にとって大きいのだ。

開催行事

- 開会セレモニー
11時30分～ もちまき・長登太鼓演奏
- 第10回古代銅製錬復元実験(8時～15時)
8時～ 製錬炉火入れ
9時～ 鉱石投入開始
(フイゴ踏み体験希望者募集※当日申込み可)
10時30分～ 第1回からみ口開栓
- 鑄造体験コーナー
銅・錫での鑄造体験(メダル・ストラップ作り) 出来上がり品は各自持ち帰り(事前申込み必要、1人300円)
- 竹細工体験コーナー
製品は持ち帰り(事前申込み必要、無料)
- 炭窯出し・製炭体験コーナー
木炭持ち帰り(事前申込み必要、無料)
- 古代銅山探検ツアー
10時発、13時発(当日申込み可)
- 国史跡銅山クイズウォーク
正解者には賞品有(当日申込み可)
- 各種バザー・取れたて地元農産物・特産品即売コーナー
- フリーマーケット

第3回 銅山まつり

10月31日(日) 10時～15時(小雨決行)

場所 長登銅山文化交流館広場(美祿市美東町長登)
主催 銅山まつり実行委員会、美祿市、教育委員会
共催 日本銅センター、県中山間地域づくり宇部地区連絡協議会、長登古代銅製錬愛好会、美東町文化研究会、長登銅山跡保存会、長登銅山窯愛好会

申込・問合せ先
長登銅山文化交流館(美祿市美東町長登 610 番地)
☎・FAX08396(2)0055)



昨年の「古代銅製錬復元実験」の様子

市内の文化財紹介④

長登銅山跡(美東町長登・国指定史跡 平成15年指定)

長登銅山跡は、古代から昭和35年まで稼働した鉱山で、東西1.6km、南北2kmの範囲内に多くの採鉱跡と製錬跡が点在しています。なかでも大切谷を中心とした約35万㎡が日本最古の銅山跡として国指定史跡となっています。長登という地名の由来は、奈良の都に銅を送っていたことから、奈良登が訛り、長登になったとされています。また、奈良の大仏に長登の銅が使われていたこともあり、「奈良の大仏さまのふるさと」としても親しまれています。

平成21年4月には長登銅山文化交流館が開館し、長登銅山跡関係の資料をはじめ、

大田・絵堂戦役等の資料も展示しています。



長登銅山文化交流館

大切4号坑